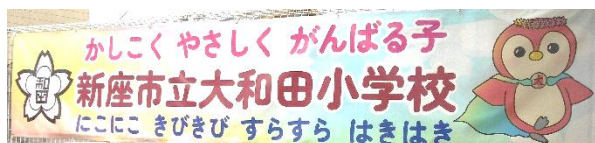


 開校明治七年 開校150周年	大和田小だより 学校教育目標 かしこく やさしく がんばる子 地域と伝統に支えられ、本年度開校150周年を迎えました。	めざす学校像 子供の自己有用感を実感させ、主体的・協働的な学びを実践する学校 ～すべての子を大和田小の光に～ 6月号 令和6年5月31日 新座市立大和田小学校 児童数 745 名・学級数 27 学級	6・7月の生活目標 時刻を守って 生活しよう ・通学班の集合時刻を守る ・チャイム着席 ・最終下校時刻は 15:20
---	---	--	--

水無月 150年の学校の伝統を受け継ぐ

校長 近藤 章宏

5月23日に150周年記念の航空写真の撮影を行いました。昨今は撮影機器も進化してドローン機での撮影でした。ドローン機が軽やかに飛び立つとあっという間に上空に上がると小さい機体なので見えなくなります。カラーエプロンを広げてマスコットキャラクターの「だっペン」を全校児童で表現することができました。150年前の子供たちが今の学校を見ることができたなら、どんな思いを持つのかなと思うところです。



学校で学ぶということ

学校には、知識を学び、学んだ知識を活用して自らが生きていくための学力を習得していくという学習する場としての役割と、集団生活の中で社会性を身に付けていくためクラスを始めとして、通学班や縦割りグループ、委員会活動などの目的に応じて形成されている小社会としての役割があると考えます。学校では集団生活が前提となります。自分勝手ではなく、時には我慢すること、他者と折り合いをつけていくこと、友達や先生を思いやり尊重することなど、多くの経験をすることができます。そして人として大切なことや、社会で生きていく上での知恵やたくましさも集団生活の中で、発達段階に応じて学んでいきます。また互いに教え合い、様々な考えや解決の仕方があるということ、互いに刺激され高めあっていくという、集団で学び生活することの利点も、学校で学ぶことの意義の大きなものではないかと考えます。本校が開校して150年。おそらく明治の大人たちは近代化にむけて子供たちに学校での学習

により知識をつけて、社会で成功し、役立つ人間になって欲しいと願っていたことでしょう。逆に当時の子供たちは狭い家族・親族の集団から抜け出し、学校で同じ年代の友達同士で学び合い、過ごすことができることに、何よりの喜びを感じていたことでしょう。

開校150年の沿革（2）

今から108年前の大正5年(1916年)に神明神社脇にあった校舎から現在の場所に校舎が移転しました。木造建築で写真でもわかる通り、平



屋建てで中央に玄関があり、左右に4教室ずつが配置されていました。児童数は503人でした。当時の子供たちの服装は着物と草履で登校し、明治の頃からあまり変わりませんでした。学校行事では徒歩で平林寺や所沢にあった飛行場へ行き、江ノ島や鎌倉への遠足で汽車に乗ることがとても楽しかったようです。授業の始まりには用務員さんが鐘をならして合図をしていました。当時の鐘は今も大和田の鐘として中庭に設置されています。昭和になるとさらに児童数が増え、校舎の増築を繰り返していました。また今の体育館がある場所に2階建ての木造の講堂もできて子供たちの学びも豊かなものになっていきました。昭和16年に戦時下の体制のなかで学校名は「大和田国民学校」という名称に代わり、昭和22年に新たな教育制度を迎えることになりました。

